



シェイクハンド

第39号
H25.9

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

時代の要請に応える訪問看護実現を目指して

静岡県訪問看護ステーション協議会 会長 望 月 律 子

平成25年度通常総会において、上野会長代行から引き継ぎ、会長に就任することになりました。会長代行として、また役員として、長年にわたり名実共に訪問看護ステーション協議会の発展に寄与された実績に敬意を表するとともに、その重責を引き継ぐことを重く受け止めております。役員の皆様、会員の皆様をはじめ、関連機関の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さらに今年度は、着々と準備を整えてこられた法人移行への記念すべき年度でもあります。静岡県訪問看護ステーション協議会は、全国でもトップレベルの活動をしている組織です。従来の活動内容が評価されての法人認可であり、在宅医療の充実が国の重要政策になっているこの時期に、「一般社団法人」として新たなスタートを切ることは時を得た判断であったと思います。

就任にあたり、本協議会の足跡をたどりますと、先人たちの熱意と先見性、訪問看護に寄せる使命感の高さを実感します。

発足に至るまで、そして平成8年発足以来、県医師会や行政からの支援と連携を重ね、目指す方向に焦点を定め、着実に進んできたことが分かります。

私と訪問看護の関わりは、まだ制度化される前からでした。病院併設の訪問看護室に在籍していた保健師が、自院の患者さんの在宅支援の為に、場所を選ばず遠方まで訪問していました。脳神経病棟に在籍していましたので、保健師と連携し、在宅療養を選択したご家族には、在宅で看るための心構え、技術、環境調整など、双方が納得し、安心できる状況で退院を迎えていました。現在は、在院日数が短縮化され、十分な準備が整わないまま、在宅に移行するケースがあるかと思います。それでも、家族が在宅で患者さんの療養を引き受けることができるのは、訪問看護の力です。



制度も訪問看護の利用者の状況も、当時と比較すると整備されてきた部分と新たな課題が出てきましたが、変わらないのは「在宅医療のキーパーソンは看護師」であり、「看護師の質が在宅医療の質」であることです。

2025年問題に象徴される超高齢社会を目前にし、複合型、定期巡回・随時対応型など、訪問看護の新たな「かたち」が示されています。在宅看取りや、認知症・精神疾患への対応など、今後を見据えた対策を実現するには、優先しなければならないのが人材育成です。基礎教育で「在宅看護論」を学んできた看護師が増えました。訪問看護の醍醐味を幅広く伝えると共に、安定した事業運営や労働条件改善にも取り組む必要があります。

医師会や行政が、在宅医療推進の要として、訪問看護師の確保に力を入れ、日本看護協会も優先課題にしています。時代の後押しを力に、訪問看護師たちが、安心して働き活き働くことができることを目指し、力ある事務局と共に、事業計画を推進して参ります。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成25年度 通常総会報告

平成25年度通常総会は、6月29日静岡県総合研修所もくせい会館 富士ホールにおいて、静岡県健康福祉部介護指導課課長高橋邦典様、静岡県健康福祉部地域医療課医療人材室室長貫奈秀明様を来賓にお招きして開催されました。

会員数137事業所のうち、出席81事業所、委任状は37事業所で会員の過半数をもって総会は成立しました。総会では、以下の議案の審議が行われ全て承認されました。

1. 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会定款、会費規程
2. 平成24年度事業報告・決算報告
3. 平成25年度事業計画・予算
4. 平成25年度静岡県訪問看護ステーション協議会役員

【平成25年度 静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

会 長	望月 律子	公益社団法人 静岡県看護協会 会長
副 会 長	上野 桂子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 監事
副 会 長	篠原 彰	一般社団法人 静岡県医師会 副会長
理 事	石川 英也	一般社団法人 焼津市医師会
理 事	櫻井 悦子	聖隷訪問看護ステーション千本 所長
理 事	多田みゆき	訪問看護ステーションひより 所長
理 事	石井 由美	訪問看護ステーションなかいず 所長
理 事	下田 智世	訪問看護ステーションぬまづ 所長
理 事	高井由美子	株式会社アース 訪問看護ステーションもも 統括所長
理 事	横田 佳苗	訪問看護ステーションエイム 所長
理 事	小長谷葉子	訪問看護ステーション茶町 所長代理
理 事	原木志げり	訪問看護ステーションふじえだ 管理者
理 事	佐藤 泉	訪問看護ステーション細江 所長
理 事	赤堀奈緒子	訪問看護ステーション掛川 所長
理 事	市川七奈子	訪問看護ステーション有玉 所長
理 事	尾崎 和子	湖西市訪問看護ステーション 管理者
監 事	石井 俊一	一般社団法人 三島市医師会 理事
監 事	鈴木 千春	公益社団法人 静岡県看護協会 常務理事

東部支部長 櫻井 悦子、中部支部長 高井由美子、西部支部長 尾崎 和子

※◎は各委員会の委員長

広報委員 ◎石井 由美、横田 佳苗、赤堀奈緒子

研修委員 ◎多田みゆき、小長谷葉子、佐藤 泉

総務委員 ◎原木志げり、下田 智世、市川七奈子

企画委員 ◎多田みゆき、櫻井 悦子、高井由美子、小長谷葉子、原木志げり、尾崎 和子

事務局 鈴木 恵子、白鳥美紀子、徳本 みき



全 体 研 修 会 報 告

静岡県訪問看護ステーション協議会中部支部
中部支部長

高井 由美子

1. テーマ 「在宅医療の推進について～2025年を見据えて」
2. 講 師 厚生労働省医政局指導課在宅推進室
在宅看護専門官 後藤 友美氏
3. 開催日時 平成25年6月29日（土）
16:00～17:30
4. 会 場 静岡県総合研修所もくせい会館
富士ホール
5. 参 加 者 115名

高齢化がピークとなる2025年に向けて、今ある課題と、それに対して、どのような取り組みが必要であるのかを改めて知る研修となりました。そして実際に静岡県で行われたモデル事業について、2事例の紹介があり、ますます私たち在宅医療を担う訪問看護師の役割の重要性について学ぶことができました。

講義では、まず現況を取り巻く背景を踏まえ、大きくは、救急医療の現状と今後の病院の在り方について、そして、看取りを含めた在宅医療の体制とは、どのようにしていくべきかについて聞くことができました。具体的には、高齢化に伴う現状として、高齢者の中度、軽症者の救急搬送が急増しているということから、搬送が適切であるかが、今後の課題として問われることとなります。そして、多死社会に対応するため、看取りを含めた在宅医療の推進には、どのような体制であれば在宅療養が可能となるか、その1つとして医療と介護の連携が重要課題であり、連携という課題に対し、行政や医師会の協力が不可欠で、それらが拠点機能となれば推進が促進されるため、今後は巻き込んでいく必要があるということでした。

統計によると国民の60%以上の方が在宅療養を希望され、末期がんの対象者では、症状が出ていなければ70%が在宅を希望していることもわかりました。今から約30年前を境に、人々の死に場所は、病院へとシフトしました。そして現在も約8割の方が病院で最期を迎えている現状ですが、多くの人は、条件が整えば最期は家で過ごしたいと願っています。また、今後の高齢社会においても、看取りを含めた在宅医療を推進しなければ、多くの人たちの最期の場所がなくなってしまう時代となります。そのために、私たちは、サービス供給の充実化や家族支援、後方ベッド確

保のための連携、そして、24時間の在宅医療を提供するための整備等、今後を見据えた構築をしていかなければならない使命があります。もはや、医療単独、介護単独とそれぞれが点で支える時代ではないということです。

今後求められるのは、多職種協働による在宅チーム医療の構築であり、今年度も国は、そのための人材育成や、在宅医療・介護の実施拠点の整備、そして連携推進や個別疾患に着目したサービスの充実と支援に対し予算が組まれ、モデル事業として実施されているとのことでした。講義の中では、実際に天竜厚生会、森町家庭医療クリニックの方たちから事業報告があり、多職種による連携体制や24時間コールセンターの機能、そして、不必要な救急受診を避けるための方法として在宅医療コーディネーターの存在の必要性等具体的な内容を知ることができました。また徐々に普及しつつあるICTの活用についても、人と人とのネットワークの構築が大前提であると、改めてその目的を確認できた機会にもなりました。

2025年を見据えて、できる限り住み慣れた地域で、必要な医療・介護サービスを受けつつ、安心して自分らしい生活を実現する社会を目指すために、まずは多職種が、互いを理解するための顔の見える化と、連携推進のための意識改革と共通ツールの活用が必要です。

そして行政や医師会にも協力を仰ぎ、チームとして包括的に支援できる、シームレスなシステムづくりに取り組むことが、重要であると再認識したところです。





ステーション紹介

東部 訪問看護ステーション 紡ぎ

渡邊 美佐代



昨年7月に開設しました「訪問看護ステーション 紡ぎ」です。下田港が目の前の事務所で毎日絶景を眺めています。スタッフは看護師2名、准看護師1名、訪問地域は下田市、南伊豆町、河津町です。地域の高齢化率もかなり高く、訪問看護の需要も増えていますが、ここで大きな課題が…。

「訪問看護って何をしてくれるの?」「ヘルパーと違うの?」まだまだ地域の方々に認識されていないのが現状です。先日は、訪問先で「あんた看護師さ

んだったの」と利用者さんの奥様に言われました。医療行為なども行っていたのですが(苦笑)。きっと看護師でも介護の方でもご家族にとっては同じなのかもしれません。

でもそのような関わりの中でも、看護師としての専門性を生かし安心をお届けしよう、と思ひも新たにしました。利用者の方たちからは「もっと早く来てもらえばよかった」「こんな制度があるなんて知らなかったよ」などの声もよく聞かれます。

病院、行政、ケアマネの方々と連携を図り、訪問看護の内容を皆様に理解していただき、安心して在宅で生活できるようお手伝いしていきたいと思っています。

す。

この3月より認知症を含む精神科の訪問看護も始めました。生活全般への援助の難しさも痛感しつつ、頼りにしていただいている喜びも味わいながらの訪問です。

開設して1年。日々勉強の毎日ですが、「待ってたよ」の声に背中を押してもらいながら、スタッフ一同明るく、元気に頑張っています。

次は「訪問看護ステーション花時計」さんです。

中部 訪問看護ステーション 丸子の里

杉山 宏美

こんにちは、「訪問看護ステーション丸子の里」です。静岡市の長田地域の「丸子(まりこ)」という場所にあり、市の中心部より西に車で20分程の所に位置しています。長田地域の東側には安倍川が流れ、南側には駿河湾が広がり、西北側は山々に囲まれた自然豊かな地域で訪問しています。

母体は特別養護老人ホームです。同敷地内に通所系、訪問系、居宅事業所があり、当ステーションは平成11年4月に開設されました。「病気や障害を抱えた人々が、地域や家庭でも“その人らしく”生活できるように支援し、利用者が自らの力で療養生活

の質を高められるように必要な看護サービスを提供する。」を理念にスタートし、15年目を迎えました。看護部の統括管理者をはじめ、常勤看護師3名、非常勤看護師1名で活動しています。介護保険での利用が85%、半数以上は介護度4・5、90歳以上が25%という現状で平成24年度の新規利用数の60%は1年未満の訪問期間という結果でした。これは平成23年度と比較すると約2倍増となっています。

近年の訪問の傾向としては、ターミナル期からの利用や病状の変化が著しく入退院を繰り返し在宅生活期間が短く、濃厚な関わりが多くなっています。



看護サービスを提供させていただきながら学ばせていただいていることを実感し、私達自身を成長させて頂いています。開設当初に比べ業務内容も少しずつ変化しています。それに素早く対応できるようスタッフ全員で日々奮闘しています。

平成24年12月より法人内で定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の開設に伴い連携を図っています。「介護方法がわからない」「退院に伴い自宅での処置が心配」「家族だけで介護するのは不安」等の思いに応え、いつも寄り添えるステーションでありたいと思っています。

次は「訪問看護ステーション大岩」さんです。



西部 訪問看護ステーション 掛川

赤堀 奈緒子

こんにちは。静岡県看護協会 訪問看護ステーション掛川です。平成10年に開設し、地元小笠医師会の先生方、総合病院、ケアマネジャー等との良好な連携のもと、徐々に規模は拡大しています。看護師は常勤5名、非常勤9名で、利用者数は170名前後です。24年度1年間で死亡終了された方105名中在宅での看取りは74名であり、地域の先生方からの信頼を物語っているといえるでしょう。最近は短期間で終了するケースが増えており、危惧されている2025年問題や多死社会がじわじわと近づいていると実感しています。これからも『住み慣れた地域で最期まで暮らせる』ための訪問看護を提供してきたいと考えます。

平成23年には、掛川市独自の地域包括ケアシステムとして開設された掛川市東部地域健康医療支援センター「東部ふくしあ」の中に入居し、地域包括支援センター、見守りネットワーク支援の社協、行政職と協働しながら、活動しています。精神疾患や引きこもりの子と加齢に伴い介護が必要になった親の家庭や地域との関係が希薄で加齢によりADLが低下した、パーソナル障害の独居高齢者等複雑な問題を抱えているケースに対し、多職種で情報交換し、同じ方向性で連携しながら問題解決に向けて関わっています。訪問看護だけで活動していた時と比べ多職種から教わることも多く、地域のための活動が広がっているように感じています。



また、今年12月に開設される「西部ふくしあ」には、サテライトとして入居する事が決まりました。東部ふくしあからは10分そここの場所ではありますが、掛川市北西部地域への訪問が物理的に楽になります。我がステーションにとっては開設以来の大きな変革です。2カ所に事務所が分かれても変わらないチーム力をキープするため一致団結しつつ、愛あふれる訪問看護を続けていきたいと考えています。

次は「天竜厚生会訪問看護ステーション」です。



地域連携室より

静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター
地域医療連携・在宅転院支援 看護師長 林 さとみ

毎朝8時25分、静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センターで、朝のミーティングが始まります。始業時間は、8時30分、始業時間前にミーティングが開始になるのは、8時30分きっかりによろず相談の電話が鳴り始め、相談員が対応を始めるためです。よろず相談は7名のMSWが、患者・家族の相談に窓口で対応するだけでなく、病院内外からの、電話での相談にも対応しています。テレビ放送でがんに関連した番組が放映された翌日などは、一日中電話が鳴りやまないことも時々あります。

静岡県立静岡がんセンターには、よろず相談、地域医療連携・在宅転院支援、患者家族教育、がん総合対策などの業務を行う疾病管理センターという部門があります。疾病管理センターは病院の一部門という位置づけではなく、組織や指示命令系統を分離し、病院と並列の立場で業務を行っています。静岡がんセンターの「①がんを上手に治す。②患者さんと家族を徹底支援する。③成長と進化を継続する。」という3つの理念の2番目、「患者さんと家族を徹底支援すること」を主な目的として運営され、がんの治療やケアのサポート的な存在として、またあるときには患者の側に立つ患者代弁者としての役割を果たすため、病院の一部として機能するのではなく、独立した組織になっています。

地域医療連携・在宅転院支援は、この疾病管

理センターの機能として大きな柱の一つとなっています。地域医療連携担当は常勤事務職員1名と非常勤3名、委託職員4名で、病診・病病連携業務、感染症対策病院連携や歯科地域連携、地域連携パスなど多岐にわたる膨大な連携業務をこなしています。連携担当事務職員は連携業務の超ベテラン。病院名を伝えたとその病院の担当者や特徴など、電子辞書のごとく瞬時に情報を教えてくれます。在宅転院支援は看護師3名とMSW1名、事務非常勤職員1名が、担当します。この道15年の在宅支援ベテラン副看護師長、病棟・通院治療センターなど病院業務に精通した副看護師長、がん性疼痛認定看護師の看護師長、親切丁寧できっちりした仕事売りのMSWのホープと、それぞれのメンバーが得意を生かし、協力体制のもと、患者退院時の在宅療養の調整や転院支援、外来患者の支援を行います。昨年度より、各メンバーが病棟と外来を担当制で受け持つ体制をとり、現場スタッフとのコミュニケーションの充実により依頼件数は大幅に増加しています。昨年の実績では約2240件の調整を行いました。

静岡がんセンターでの在宅支援の特徴の一つとして、外来患者さんに対する調整が非常に多いことが上げられます。がんは進行性の疾患であり、外来通院中の患者さんの状態は一定であることは少なく、少し前までは不自由のない生活を送っていた方ががんの進行に伴いガタガタと短期間に病状が悪化することが多くみられます。在宅で少しでも長く良い時間を過ごしていただくためには、在宅支援サービスをタイムリーに導入することが必要であり、外来受診時に在宅療養の調整を求められることが多々あります。こういった外来での患者のニーズの把握は外来看護師の重要な役割です。しかし昨今の看護師不足は外来にも波及し、医師の診察に医療補助事務員がつく外来も出てきました。そのせいか、当院では在宅支援の依頼が、看護師だけでなく医師から入ってくることもあります。

病院滞在時間が短い外来患者さんへの介入は





いつもバタバタで、十分な調整ができているのか不安になります。しかし、在宅で支援を実際行っ
て下さる、訪問看護師やケアマネジャーがこの不
全感をいつも払拭してくれます。足りない点を
きちんとカバーし、もっと良い支援を実践してく
ださる頼りがいのある大きな存在です。また当
院では、がん専門病院という特徴から、遠方
にお住まいの患者さんもおられ、在宅支援の際に、
初めて繋ぐ訪問看護ステーションや地域包括支
援センター、居宅介護支援事業所なども少なくあ
りません。

訪問看護師やケアマネジャーの方々とのコ
ミュニケーションと密な情報交換は、在宅支援担
当者の大きな役割で、私たちがとても大切にし
ていることの一つです。私たちが「あんちょこ」
として活用している、「在宅支援連携先リスト」
はどんどん厚みを増しています。この厚みとと
もに支援の輪を広げていくこと、病院現場スタッ
フと協力し、支援内容のクオリティーを維持向上
させることを目標として、一つ一つの事例に関
わっていきたいと考えています。

中部支部研修会報告 災害時における訪問看護師の役割

訪問看護ステーション萩 竹澤 まゆ美

東日本大震災から2年、各地域・家庭・職場で
防災のあり方について再確認、検討していること
と思います。今回、訪問看護ステーションにおけ
る災害時の対処、役割について宮城県訪問看護ス
テーション協議会会長伊藤久美子氏をお迎えし
て研修を開催したので報告させていただきます。

講演では、宮城県石巻市また、県内の訪問看護
ステーションの被害状況、そこから見えてくる問
題点を実体験をもとにお話してくださいました。

震災で1番大変だったことは、ライフラインの
寸断だったとのこと。電気・ガス・水が使えず寒
さに耐え空腹に耐える日々、ライフラインの回復
に時間がかかるため、最低7日分の水、食料、医
薬品等の必要物品の準備を啓蒙することが大切
であるとのことでした。また、震災直後、ステー
ションの事務所が流されたり浸水し使用できな
かったり、車も流され残された車で訪問を余儀
なくされ、優先順位を決めて訪問したとのこと。
特別な医療機器の使用者には、個別チェックリ
ストを用いて必要な物品と災害時の対応を指導
することが大切であること。ステーションの車を
緊急車両と認めてもらうよう自治体及び警察署
への交渉も大切であることを学びました。

災害時、スタッフ及び利用者の安否確認が困難
な中、1. 各自がまず自身の安全を確保し訪問看
護師としての役割を果たせるようにする。2.
自分たちの地域や職場に合ったマニュアルを定
める。3. 最も大切なこととして、災害時には身

近にいる人の協力が不可欠であり、各事業所間
はもちろん、日頃から近所・地区・自治体を巻き込
んだ利用者・家族の個別計画を立てておくことが
大切であることを学びました。私達の地域で近
い将来起こるかもしれない南海トラフ地震に備
え、この研修で学んだことを各地域・ステーシ
ョンで生かしていきたいと思います。

最後に私が印象的だったのは、伊藤氏が、「私
はつらい経験をしましたが、こうして生きてい
ます。多くの方々に支援して頂き…私の役目は、
この体験を皆さんに伝えることです。お役に立
てていただくために。」と、笑顔でおっしゃいま
した。

震災3年目、さらに多様化、複雑化していくで
あろう被災地の課題が風化されることなく、1日
でも早い復興を願います。





訪問看護師就業セミナーの開催について

本年も訪問看護師就業セミナーを開催します。

本年度は、中東遠地区（掛川会場）、志太榛地区（藤枝会場）、富士・富士宮地区（富士会場）を新たに設置しました。訪問看護師確保に向け、1人でも多くの方にご参加いただけるよう皆様のご協力をよろしくお願い致します。

	開催日	会場
1	9/19（木）、見学実習、9/26（木）	サンウエルぬまづ（沼津市）
2	10/2（水）、見学実習、10/9（水）	富士市交流センター（富士市）
3	9/5（木）、見学実習、9/12（木）	静岡県男女共同参画センターあざれあ（静岡市）
4	9/28（土）、見学実習、10/12（土）	藤枝市社会福祉協議会在宅福祉センター（藤枝市）
5	9/18（水）、見学実習、9/25（水）	掛川市東部地域健康医療支援センター（掛川市）
6	10/3（木）、見学実習、10/10（木）	浜松市子育て情報センター（浜松市）

※見学実習…各コース希望の日で3時間程度（訪問の状況により、延長の可能性があります。）

【平成25年度 研修のお知らせ】

研修名	開催期間	募集開始
訪問看護ステーションの看護師研修	平成25年12月7日～平成26年2月8日	9月初旬～
医療機関の看護師等研修	平成25年11月29日～平成25年12月18日	9月初旬～
訪問看護事業所看護師研修 （在宅ターミナルケア研修）	平成25年11月16日～平成26年2月15日	10月中旬～

※各研修の詳細は研修一覧にてご確認ください。ホームページをご覧ください。

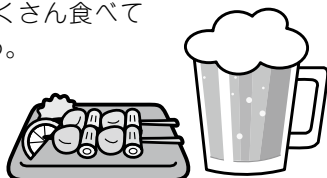
その他の研修・お知らせ等は、ホームページに随時掲載していきますので
ご確認ください。

協議会ホームページアドレス <http://www.shizuoka-vnc.jp/>

編集後記

今年の夏は、早い梅雨明けと共にドカンとした暑さが訪れ、汗だくだくの訪問でした。

まだまだ残暑が続きます。夏バテしないよう、おいしいものをたくさん食べて乗り切りましょう。



シェイクハンドNo.39

2013年9月発行

発行所 静岡県訪問看護ステーション協議会
静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13
常葉サテライトビル3階
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 望月 律子
編集者 石井 由美（訪問看護ステーションなかいず）東部
横田 佳苗（訪問看護ステーションエイム）中部
赤堀 奈緒子（訪問看護ステーション掛川）西部